

旧制中学校時代の入試問題

創立140周年記念式典に合わせ、朝日高資料館から『岡山朝日高等学校史 資料編 I 旧制中学入試』が刊行されました。朝日高初の「校史」を名乗る書籍です。岡山中学・岡山一中、岡山二女の入試問題を収集し、入試制度の変遷などの解説を添えたもので、一校の入試問題をまとめたものとしても、岡山県の戦前の入試制度の変遷を総括したものとしても、おそらく初めてのものです。

最初の『校史資料編』が入試問題を取り上げることにしたのは、このようなコンセプトの書籍は過去に出版されることがないであろうし、入試は出題内容も、制度も、社会的・教育的に関心が高いからということだそうです。当時の入試問題は、現在の朝日高生でも解けないような難問であり、最も幼い児童は12歳でこれに挑戦しました。また、入試問題は多かれ少なかれ国策を反映したもので、学校側もこれに対応するために最善を尽くします。この点で入試は国策を国民に浸透させるために有効な手段であり、変遷をまとめることは単に母校の歴史に留まらず、日本の歴史そのものをたどることにもなると考えてのことと聞きました。

今回、ピンポイントですが、明治24年(1891)の英語問題と、大正10年(1921)の地理・歴史問題、昭和20年(1945)の筆問筆答問題を取り上げ、現在の朝日高の先生方に内容や難易度、時代背景などについて少しばかり紹介していただくことにしました。

明治24年の英語問題

◆オリジナルの問題から書き出し

- 1) No day is long to those who have many works to do.
- 2) A thoughtless boy went out into the field to pass an idle day.
- 3) She had not been in the school more than a year, when he left it.
- 4) Books teach us all that is useful for us to know.
- 5) It would have been better for the world, if they had never lived.

◆和訳例

- 1) 忙しい人にとっては、日々はあっという間に過ぎる。
- 2) ある軽率な少年が野原へ出かけて行き、一日遊んで過ごした。
- 3) 彼女がその学校に来て1年も経たないうちに、彼は学校をやめた。
- 4) 本は私たちが知っておくと役に

- 立つことをすべて教えてくれる。
- 5) もしその人たちがいなかったら、世界はもっと良くなっていただろうに。

◆解説

まず、手書きで書かれた筆記体の美しさに感銘を受けます。入試で目の当たりにした尋常小学校の卒業生たちは、そこに薫る岡山県尋常中学校の知性と品格に、少なからず圧倒されながらも、学問への期待と意欲に胸を膨らませながら挑んだことでしょう。

英文の難易度は、現在なら高校2年程度でしょうか。関係代名詞、過去完了、仮定法、無生物主語など、現在なら高校で学習する文法事項を含み、大学入試の頻出項目です。さらに修辭的な構文で書かれたこれらの英文は、短いながらも日本語にするときには直訳では拙劣です。英語的な発想と日本語的な発想の違いを正確に理解し、自然な日本語で表現する力が求められる問題です。

学校で英語の授業を受けていない受験生たちが、いったいどのようにしてこれほどのレベルの英語問題に対応していたのかが不思議です。塾か家庭教師か、あるいは独学か、いずれにしても求める側の期待の高さと受験する側の能力の高さとが窺えます。

大正10年の地理・歴史問題

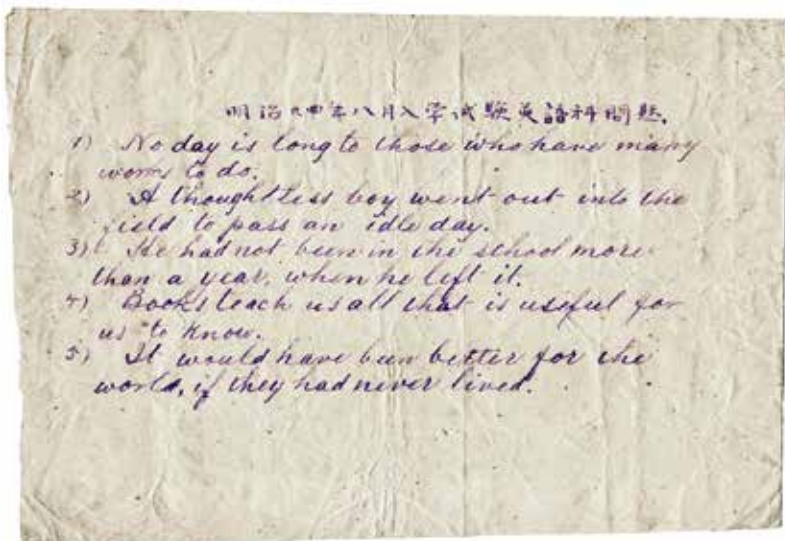
◆地理、歴史問題之部(抄)

(一) 左記ノ地名ノ所在国名、府県名又ハ地方名ヲ記シ且ツ知レルコトヲ述ベヨ

- 1、撫養 2、雲山 3、萍郷
- 4、カイロ 5、サントス
- 6、二見港 7、豊原 8、八幡

◆当時の入試問題集の解答例

- 1、徳島県、塩の産地 2、朝鮮にあり、金の産地 3、支那中部にあり、炭坑として知らる 4、^{エジプト}埃及の首府 5、ブラヂルにあり、コーヒーの輸出地として知らる 6、小笠原父島にある港にして航



明治24年8月実施の英語入試問題 コンニャク版印刷、当時は9月入学だった。